

## 2015年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

- Q、今期国内の設備投資を増加させるとのことだが、その背景は。
- A、従来通りの能力維持、合理化投資に加え、栃木工場の受注増に伴う能力増強投資を行うことによるもの。
- Q、車体系の部品を拡販したいとのご説明であるが、具体的な受注を見込んでいるのか。
- A、欧州、北米の一部の自動車メーカーで先進的な取り組みがなされており、車体系部品のアルミ化が進んでいる。従来の部品よりも軽量化が実現し、性能が良くなると聞いている。この流れが日系自動車メーカーにも来るのではと予想しているが、具体的な案件はまだ出ていない。
- Q、今期の業績予想に関して、中国の予想を保守的に見積もっていることのご説明であったが、下期にかけてのリスクとオポチュニティを教えてください。
- A、中国向けの販売動向は不確定要素が多い。自動車メーカーの販売予想に対して、低めの見積もりで計画を立てた結果としての業績予想である。この数カ月で注意深く動向を見極め、必要があれば販売予想を見直していく。
- Q、17年3月期の営業利益予想について、地域別の内訳を教えてください。
- A、具体的な内訳は開示できない。ただ、利益の柱としては日本ではなく中国と北米だと思っている。インドはまだ利益貢献に対して大きな期待はしていない。
- Q、先ほどの質問の確認であるが、国内向け今期設備投資のうち、栃木工場にはどのくらいが当てられるのか。エンジンプロック専用工場にすることだが、既存工場との役割分担はどうなるのか。
- A、投資対象としては、栃木工場の全体の約1割の床面積を占める第6工場の増築と生産設備の増強となる。この第6工場をエンジンプロック専用にして、鋳造から仕上げ加工、検査までを行う。今回の栃木工場向けの投資は第6工場の能増投資を含め、約30億円を見込んでいる。鋳造から検査までを一気通貫で行うことにより、収益回収も早くなるメリットがある。
- Q、インド工場は今期下期に黒字化との説明であるが、どのように実現するのか具体的な戦略を教えてください。
- A、インド工場は立ち上げ当初、受注した製品の付加価値が低く苦戦してきた。以降、製品が入れ替わる中、特に近年受注する製品で付加価値改善が進んできた。しかし、新規品の数量が想定通りに出ていないため、生産能力にまだ余力がある状態となっている。エンジンプロック、ミッション系部品の受注を進めているので、今後稼働率の改善と共に今期の下期には利益改善ができると予想している。  
インドでは近年自動車メーカー側の調達姿勢に変化が見られている。ローカルメーカーとの競争もあるが、価格だけではなく品質・信頼性を重視する流れがあり、品質を含めた総合力を持つ当社にとって優位になりつつある。

以上